

令和 7 年 5 月 2 6 日

名古屋美容専門学校
校長 垣本 勝三 殿

令和 7 年度 第 1 回 学校関係者評価委員会報告書

学校関係者評価委員会
委員長 菅谷 遼将

「自己評価報告書（評価対象期間：令和 6 年度）」に対し、学校関係者評価委員会を実施しましたので、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 日 時 令和 7 年 5 月 20 日（火） 9 時 4 5 分～ 1 1 時 1 5 分
2. 場 所 名古屋美容専門学校 3 階 応接室
3. 出席者 [委員 6 名] 菅谷 遼将（株式会社 APRE 代表）
石川 厚子（株式会社 トップヘアー代表）
大藪 可澄（株式会社 美容文化社代表取締役）
池内 裕史（株式会社 JS コーポレーション中部支社支社長）
有賀 海空（卒業生 株式会社 リジェール）
森 里依（保護者代表）
[教職員 7 名] 校 長 垣本 勝三
事 務 長 梅村 浩司
教務主任 後藤 高宏
渉外主任 近藤 龍起
1 年 主 任 柳生 愛
2 年 主 任 大宮 麻理
就職担当 杉本 将志

4. 自己評価報告書（評価対象期間：令和 6 年度）の結果報告と評価

評価項目	評価	評価項目	評価
(1) 教育理念・目標	4	(6) 教育環境	3
(2) 学校運営	4	(7) 学生の受入れ募集	4
(3) 教育活動	4	(8) 財務	4
(4) 学修成果	3	(9) 法令等の遵守	4
(5) 学生支援	4	(10) 社会貢献・地域貢献	3

[評価基準] 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

I 重点項目について

- ① 組織体制について、令和6年度より校長を含む6名が新たな役職者として運営されており、学生ファーストの理念に基づき、新たな施策に挑戦している姿勢を感じました。新たな教員を採用されている点も良いと思います。
- ② 教育成果について、質の高い教育を目指した新カリキュラムが好評で、昨年は例年以上に多くの入学志願者の確保に繋がった要因の一つかと思います。
- ③ コロナ禍以降の退学者の増加について、同種他校と比較すれば低い数値ですが、世間の名古屋美容への評価を考えれば、一層の努力を期待します。退学者減少プロジェクトの進捗を2年間、共に情報共有させていただきます。
- ④ 危機管理について、学生生活の安全を第一に考えていることに保護者様も安心されていると思います。不審者の侵入防止となる玄関の顔認証セキュリティーや災害時の備蓄品等、万が一の備えをよろしくお願いします。
- ⑤ ブランディングの強化について、高い国家試験の合格率をはじめ、コンテストでも優秀な成績を納めており、サロンの評価も高く、名古屋美容は良い立ち位置にあると思います。

II 各評価項目について

1 教育理念・目標

- ① 売れる美容師としての職業教育の特色を明確化して、他校との差別化ができています。
- ② ブランド樹立の基礎となるセルフブランディング力の向上と人間性の教育成果に注力して、目標を達成できる頑強な組織体制の構築を目指しています。

2 学校運営

- ① 少子化に向けて、教育の質とブランディングの向上に繋がる施策を実施。
- ② 教育課程や安全面において地域社会のガイドラインに沿って、法令を重視。
- ③ 法人全体の第3次中期計画の数値目標の達成に向けて、業務を運営。

3 教育活動

- ① 社会情勢を見ながら、学校は社会の一部であることを自覚して、時代によって変化する学生、保護者に寄り添った教育活動を行っています。
- ② 学生の授業評価や保護者、サロンからのアンケートを有効活用し、その検証、対策、改善を行い、教員への研鑽のための研修も実施。

4 学修成果

- ① 国家試験やコンテスト等、社会から見た学校への評価は地域でも高い存在。
- ② コロナ後の退学者増加に歯止めを掛けるため、プロジェクトを結成して防止を計画。

5 学生支援

- ① 学生生活に対する悩みやアカデミックハラスメントを防止する窓口を担当だけでなく、複数設置して学生のメンタルケアに努めています。
- ② 保護者との情報共有を重んじて、学校・家庭の両面から学生をサポートされています。

6 教育環境

- ① 校舎改修から13年を超えたため、施設設備の修繕を随時実施。
- ② 地震や台風等の災害時に学校での避難を継続できるだけの防災への備えを強化。

7 学生の受入れ募集

- ① 入学定員を通年して充足しており、近年は特に好調。
- ② 美容業界から求められる、意識の高い学生を獲得できる入試倍率を確保。

8 財務

- ① 全教職員に光熱費や無駄なコスト削減の意識を徹底させ、不要な支出を削減。
- ② 物価高騰や運営コストの値上がりに耐えられる財務管理体制を整えるために令和7年と令和8年度に学納金の値上げを計画。

9 法令等の遵守

- ① 法令遵守を大前提として、社会情勢と第三者評価を意識した学校運営。

10 社会貢献・地域貢献

- ① 学生生活の負担にならない範囲で、職業教育の成果を発揮できるボランティア(催事のヘアメイク、サロンモデル等)を実施。
- ② 災害時の避難場所としての申請を予定。

11 国際交流

- ① コロナ後、SASSOONとの提携を辞めてから海外との提携先を模索中。
- ② 卒業後に留学を希望される学生が数名いるとのことですが、例年、自己評価での数値がないため、学校関係者評価委員会での数値評価も取りやめました。

III 意見交換会

- ・名古屋美容の社会的評価について。
- ・学校運営(退学者減少)には保護者の協力は欠かせない。保護者との連携方法について。
- ・令和の学生の傾向について、人生の目的(理由)を伝える重要性。
- ・早期退職者に対する改善策について、サロンの情報を数値化して学生に伝えることも一案。
- ・サロン選びのミスマッチについて、SNSで得る情報には偏りがあり、情報量を増やすことが重要。
- ・学生時代と卒業後の人間関係の構築方法について。
- ・卒業後の母校の評価について。 他

IV 総評

名古屋美容専門学校は、学校という立場で企業以上に社会の一部であるという意識を強く持ち、保護者や時代に寄り添った運営をされていると感じました。そのため学校関係者評価委員会が果たす役割は大きいと思います。

今回は主に令和6年度の自己評価を客観的に透明性を持って、判断や助言をさせていただき、学校運営の提案を行いました。学校側と運営上の情報共有を行うことで学校の応援団となり、PDCA サイクルを回すことに第三者としてお役に立てれば幸いです。

また、建設的な議論の場として意見交換を行い、それぞれの立場から付度なく学校の問題点や改善点を議論させていただきました。令和の時代に合った学生指導やメンタルケアについて、同様の悩みを持つサロン、企業も多く、卒業生を受け入れる側としても有意義な時間でした。

次回の委員会では、施策の進捗状況や改善策についても言及できるように努めて参ります。

以上